



# エピナール版画とエスペラント語 Epinal-bildoj kaj la lingvo Esperanto

「エピナール版画」とは、フランス北東部のエピナール市で作られた民衆版画。起源は 15 世紀の木版画にあり、聖母子や聖人の肖像、新旧約聖書の一節、ことわざが主な題材だった。19 世紀後半からは子女教育を目的とした道徳物語や、兵隊整列図、立体模型の型紙といった娯楽ものも作られた。20 世紀初頭には「ペルラン社」がエピナールを拠点に市場を世界にまで拡大。フランス語のみならず、あらゆる言語の版画が生み出され、エスペラント語版も、1905 年と 1907 年の二回に分けて、23 枚が出版された。これはペルラン社とフランス・エスペラント協会の強い協力体制の成果だったが、具体的にはどのような結果が期待されていたのだろうか。また、作成に至る経緯はどうだったのか。エスペラント語版エピナール版画はもちろん、当時のポストカードや新聞記事等の資料も用いながら紹介していただく。

## ●講師：上田 あゆみ 氏 (美術史研究家)

エピナール版画との出会いのきっかけは、大学院修士課程から研究し続けているフランスの画家ジョルジュ・ビゴー (1860-1927)。1882 年から約 17 年間も日本で生活したジャポニスム画家で、帰国後はペルラン社の専属画家として活躍した。エスペラント語版エピナール版画は、ビゴー作品を調べていた際に目に留まった。エスペラント語版がどのような歴史的文脈で作成されたのかを調査し、昨秋、ナンシー大学での国際学会 *Illustrating Identity/ies* で発表した。その内容を元に、今回は日本語で。

●日時：2018年 9月 20日 (木) 18:30~20:00

●使用言語：日本語

●会場：エスペラント会館 4階 (エレベーターなし)  
東京メトロ東西線「早稲田」駅出口 1 番 (「神楽坂」寄り) 2 分。

●参加費：1,000 円 (資料とも)

★講演会終了後 20:15~22:00 に懇親会 (会費 1,500 円)

## ●主催・問合せ先：ロンド・コルノ

電子メール [korno@esperanto.ne.jp](mailto:korno@esperanto.ne.jp)

ファクシミリ 03-3429-5196 電話 03-3429-5173 (きくしま)



— Ĥa! mi ne volas plu restadi! Imagu, ke hieraŭ li stelis la katon de patrino Mikael, kaj matene donis ĝin, kiel kuniklon mangotan de siaj klientoj. »

●ロンド・コルノ Rondo Korno (「角笛サークル」の意味)は、1965 年 12 月 3 日視覚障害者を中心に設立。首都圏の地域エスペラント会の一つとして、視覚障害者と視覚使用者とがいっしょに国際共通語エスペラント語を学び、使用している。例会・学習会は、毎週木曜日 18:30~20:30 にエスペラント会館 4 階教室で。

## 国際共通語 **エスペラント** とは？ **Kio estas Esperanto?**

● **誕生日のある言語**：現在のポーランドの地(当時はロシア帝国)にいたユダヤ人眼科医ザメンホフ博士(1859-1917)が創案し、1887年7月26日に出版許可を得て発表した**計画言語**。国家・民族・言語や社会的・経済的・政治的背景を超えて、母語の異なる人々が平等・対等な立場で話し合うための第2言語として、130年余にわたり、使い続けられている。ザメンホフ博士は、ユネスコの「2017年に『没後100周年』を記念する人物」の一人に選ばれた。

● **合理的で例外のない発音と文法**：一般の民族語に比べると習得が容易であり、同時に表現力も豊か。日本語を母語とする人でも、英語などの100分の1程度の労力で習得できると言って過言ではない。言語習得には努力が必要で個人差もあるが、週1回2時間1年間程度(実質80~100時間)の講習で、英語でなら中学校~高等学校卒業程度に習得できる。文字と発音が一致している上に母音が日本語と同じ5つで聴き取りやすく発音しやすいので書籍だけの独習でも実用でき、書き言葉と話し言葉が一致しているので会話に入りやすい。講習会のほか、**通信講座**(<http://www2.tokai.or.jp/esperanto/>)、**インターネット上の講座**(クルソ・デ・エスペラント日本語版 <http://kurso.com.br/index.php?ja>、レルヌ日本語版 <http://lernu.net/ja>、英語の知識を活用して学ぶエスペラント <http://plaza.harmonix.ne.jp/~sakat/> など)、**合宿形式の講座**、**音声・ビデオ教材**、**独習用書籍**など、学習手段は多種多様。エスペラント文を読み上げる無料ソフトやパソコンで使える無料辞書(下記JEIホームページからダウンロード可)も。2006年JEI発行の『エスペラント日本語辞典』(B6判1,328頁の中型辞典。2017年12月刊第2版 本体5,400円)は充実した学習辞典。持ち歩きには大学書林発行の『エスペラント小辞典』(520頁、両引き、本体3,800円)も手軽。

日本各地の行事や学習機会・教材についてのお問い合わせは、一般財団法人日本エスペラント協会(JEI = Japana Esperanto-Instituto) 162-0042 東京都新宿区早稲田町12-3 電話 03-3203-4581 ファクシミリ 03-3203-4582 メール [esperanto@jei.or.jp](mailto:esperanto@jei.or.jp) ホームページ <http://www.jei.or.jp/> へ。

● **エスペランティスト(エスペラント語使用者)の数は?**：一般財団法人日本エスペラント協会は会員約1,000名、世界エスペラント協会(本部はオランダのロッテルダム <http://www.uea.org>)は個人会員約4,500+団体会員約8,500=約13,000名。しかし、この数はエスペランティストの中の組織化された一部に過ぎず、実際には100万人以上。世界中に散在しているので、エスペラント語を使うと世界中に友だちをつくれる。専門分野ごとの国際組織・情報交換網や都市・分野ごとの世話人網・家庭宿泊網も広く展開されており、活用の可能性は無限にある。いろいろな内容・対象の雑誌や、原作・翻訳での書籍の出版も盛ん。

● **国際行事で手軽に「地球人体験」を**：毎日、世界各地でエスペラント語を使っての国際行事が開催されている(<http://www.eventoj.hu/kalendaro.htm> はエスペラント語行事の国際カレンダーの一つ)。どの行事も「**通訳不要の国際会議**」そのもので、日本の初心者も、国や言語の壁を忘れて「地球人」になれる。

最大の行事は**世界エスペラント大会**で、毎年夏の1週間に数十か国の2,000~4,000名の参加で開催され、日本からだけでも例年200名ほどが参加する。2017年第102回は7月22-29日に韓国のソウル市で62か国の1168名で。2018年は7月28日-8月4日にポルトガルのリスボン、2019年はフィンランドのラハティ(Lahti ヘルシンキの北100km)、2020年はカナダのモントリオールで。若者だけの**国際青年エスペラント大会**は1週間の国際合宿で、2017年第73回は西アフリカのトーゴのアネホ、2018年はスペインのバダホスで。地域ごとの大会もあり、隔年の**アジア太平洋・エスペラント大会**は、2019年第9回が4月にベトナムのダナンで。**日韓中越持ち回りの東アジア青年セミナー**も毎年開かれ、日本担当の2017年第37回は12月に大阪市、2018年は中国で。**教員・教育者組織 ILEI**の大会も毎年で、2017年第50回は7月15-22日に韓国のプサン、2018年は7月21-28日にスペインのマドリッドで。ほかにもものんびり休暇を過ごす観光行事、エスペラント語を学ぶ行事、特定の課題での討論・研究行事など、大小・長短・多種・多様にある。一度参加したら初心者でも病み付きになること請け合い。国際恋愛・結婚が多いのが当然の雰囲気がある。

日本国内でも、全国大会や地方大会、学習中心の合宿などがあり、2018年第105回日本エスペラント大会は10月12-14日に奈良で「**第2回日韓共同開催エスペラント大会**」として開催される。

● **世界中で家庭に泊まれる!**：エスペランティストを対象にした**国際家庭宿泊網**があり、自分は泊められない人でも外国のエスペラント家庭に宿泊でき、家族のように迎えらる。お礼は「エスペラント語で話して情報交換すること」。日本に居て、遠い国からのお客を泊めたり案内したりするのも楽しい。だから、若者ばかりでなく、定年退職後に学習を始めて一味違う「国際的な生活」を楽しむ年金生活者も多い。